

回答者の属性

1. 回答者の属性の特徴

(1) 回答者の属性の概要

回答者の性別

回答者の性別は、全体では「男性」44.1%、「女性」55.3%で、女性の回答者が10ポイント以上高くなっていた。

回答者の年齢

回答者の年齢は、「18～24歳」6.7%、「25～29歳」6%、「30～34歳」11.4%、「35～39歳」9%、「40～44歳」9%、「45～49歳」8.1%、「50～54歳」7.8%、「55～59歳」10.1%、「60～64歳」9.1%、「65～69歳」7.3%、「70～74歳」6.1%、「75歳以上」9.1%であった。

このように5歳刻みで回答を得たが、煩雑さを避けるため10歳刻みに計算し直して、クロス集計などを行うことにした。「30歳未満」12.7%、「30歳代」20.4%、「40歳代」17.1%、「50歳代」17.9%、「60歳代」16.5%、「70歳以上」15.2%という結果であった。回答者は「30歳代」が最も多く、18歳以上を調査対象者としたのであるが「30歳未満」からの回答者が最も少なかった。

回答者の住居の状況

回答者の住居の状況は、「持ち家(一戸建て)」が47.2%で最も多く約半数を占めており、「持ち家(マンションなど)」が25.8%で4分の1、「賃貸(マンションなど)」が20.2%で、この3者で回答者の9割以上を占めていた。「社宅・官舎・寮」は2.8%、「その他」1.6%であった。

回答者の居住歴

回答者の居住歴は、「21年以上」の長い居住歴を持つ人が33.2%と3分の1を占め、「11～20年」が17.4%とこれに続き、半数以上が11年以上の居住歴を持っていた。「3年未満」と「3～5年」を合わせた5年以内の人が31.6%であり、この層もほぼ3分の1を占めていた。したがって、5年以内、6～20年、21年以上で3分割されていたことになり、10年ごとで区切ると「10年未満」が49.1%でほぼ半数となっており、比較的居住歴の短い人の回答が多かった。

回答者の家族構成

回答者の家族構成は、「親と子(2世代)」が50.7%で回答者の半数を占め、「夫婦だけ」が23.6%と全体の4分の1、「ひとり暮らし」が9.6%、「親と子と孫(3世代)」が8.5%とそれぞれ1割弱となっており、「その他」は7.1%と最も少なくなっていた。

回答者の子供の年齢(複数回答)

回答者の子供の年齢は、複数子供がいる場合はそれぞれの年齢階層ごとに選択する複数回答とした。「19歳以上」が44%で最も多く、「子供がいない」が29.5%でこの両方で回答者の4分の3を占めていた。さらに、子供の年齢が「3歳以下」は8.5%、「4～6歳」が5.5%、「7～12歳」が10.0%、「13～15歳」が7.1%、「16～18歳」が6%となっていた。18歳以下の子供を6年刻みに置き換えて見ると、6歳以下の乳

幼児が 14.0 %、小学生が 10.0 %、中学高校生が 13.1 %ということになっていた。

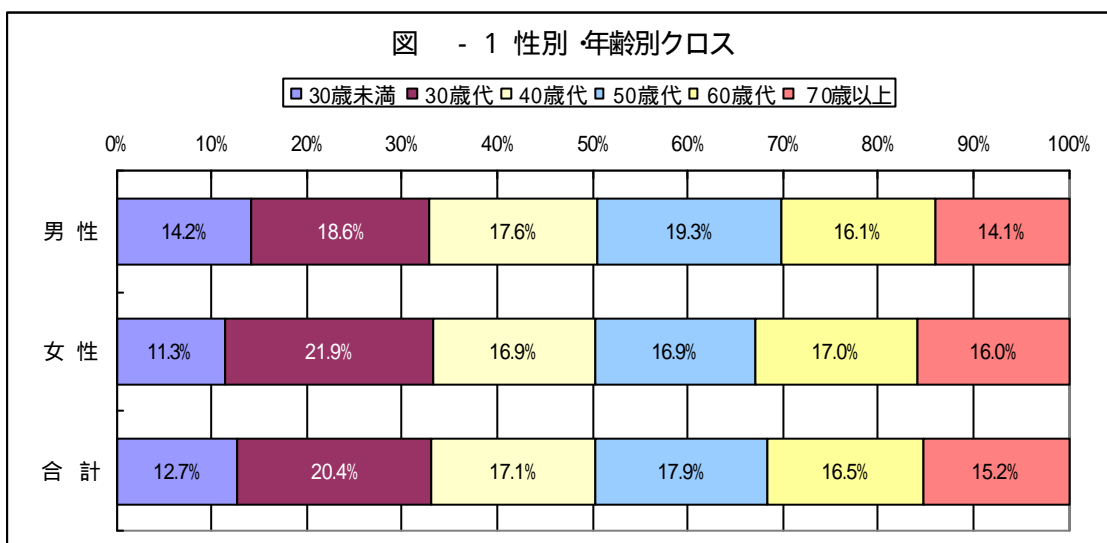
回答者の就労状況

回答者の就労状況を見ると、「公務員・会社員」のいわゆるサラリーマン層が 32.9 %と最も多く、「専業主婦」が 22.6 %、「パート・アルバイト」が 14.1 %、「就労していない」が 14 %、「自営業」が 6.7 %、「その他」が 4.8 %であった。

(2) 回答者の属性のクロス集計

性別と年齢別のクロス

性別と年齢別でクロス集計してみたが、性別・年齢別の際だった特徴は見らず、「60 歳以上」で女性の割合がやや高いことと、「30 歳代」の女性がわずかに多かった程度であった。

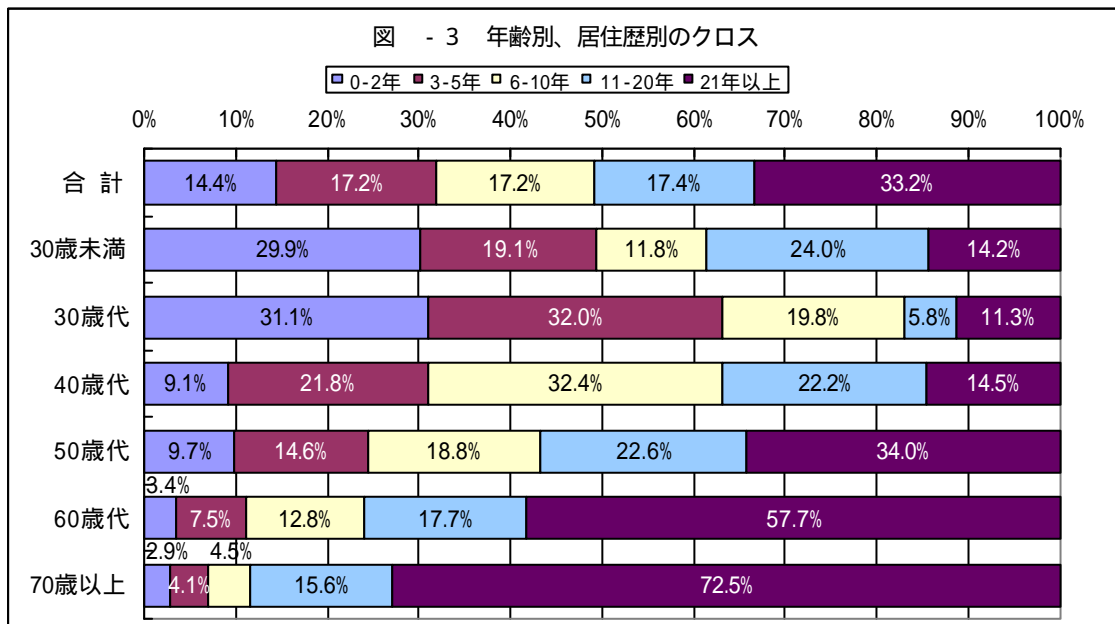
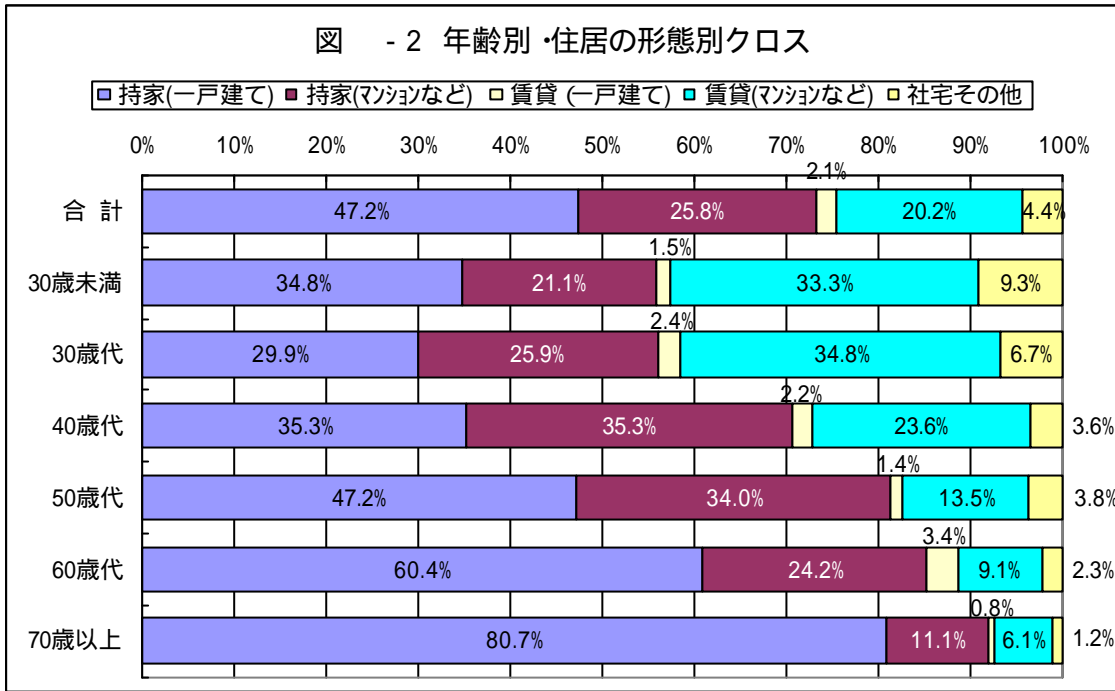


年齢別と住居の形態別のクロス

年齢別と住居の形態別についてクロス集計したところ、「30 歳未満」「30 歳代」でそれぞれ 33.3 %と 34.8 %が「賃貸（マンションなど）」に居住しており、他の年齢層よりも 10 ポイント以上多くなっていた。「40 歳代」では、「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（マンションなど）」が共に 35.3 %と拮抗しており、それ以降、加齢にしたがって「持ち家（一戸建て）」の割合が加速的に増加していく傾向が明確に示されていた。

年齢別と居住歴別のクロス

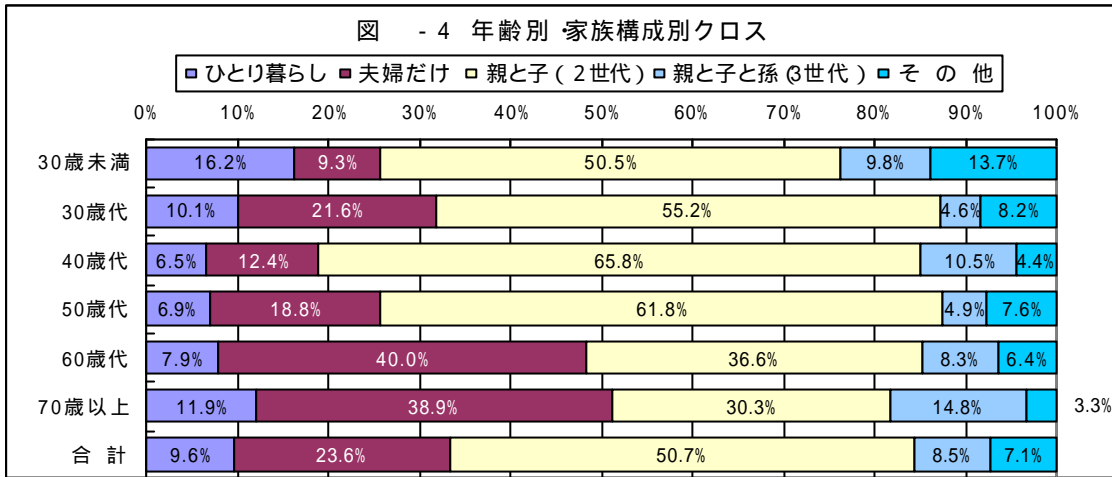
年齢別と現住所への居住歴別とをクロス集計した。「30 歳未満」と「30 歳代」では「3 年未満」が 3 割と多くなっていたが、「30 歳代」は「3 ~ 5 年」も 3 割を超えており 5 年以下で 6 割を占めていた。40 歳代以降については、当然ではあるが、年齢が上がるにしたがって居住歴が長くなっており、居住歴と年齢との相関していることが明らかに出ている。「70 歳以上」では「21 年以上」がほぼ 4 分の 3 となっていた。



年齢別と家族構成別とのクロス

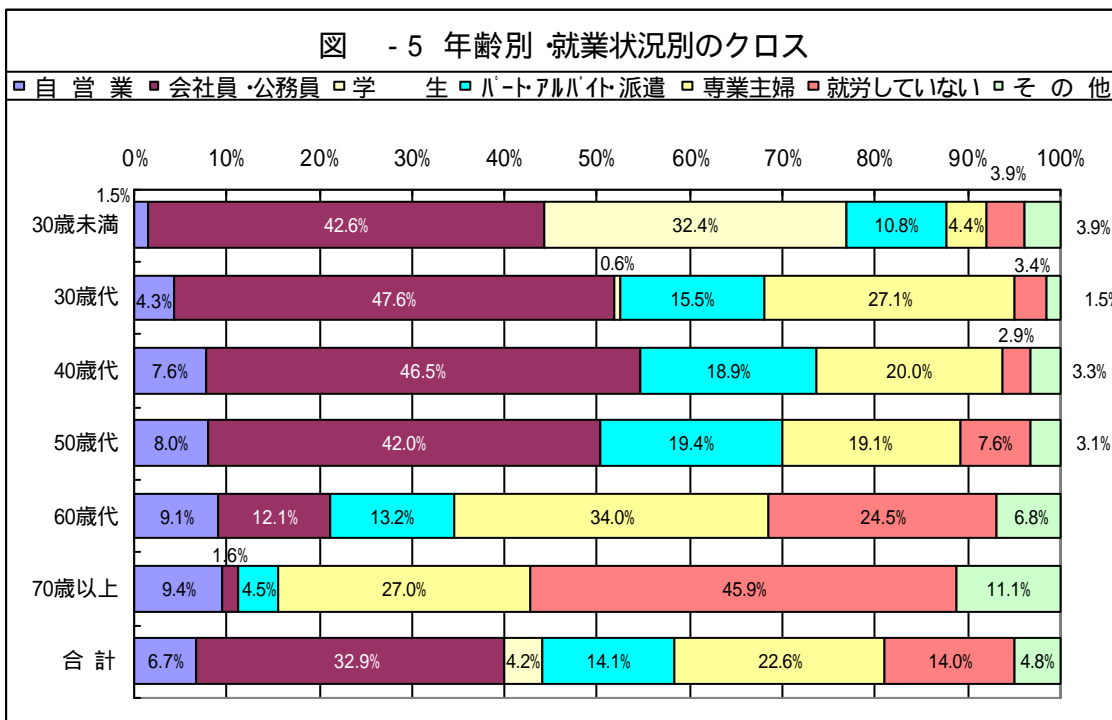
年齢別と家族構成別とのクロス集計をしてみたところ、いくつかの特徴が見られた。「ひとり暮らし」の人は「30歳未満」で16.2%と他の年齢層よりも多く、「40歳代」の6.5%が最も低く、それ以降加齢にしたがって少しずつ増加していく傾向が見られた。「夫婦だけ」の世帯は、「30歳未満」で9.3%と最も低く、「30歳代」になって21.6%に増加するものの、「40歳代」になって14.4%と減少し、以降、加齢にしたがって増加し、「60歳代」で40%とピークになる。「親と子の2世代」世帯は、「40歳代」が65.8%とピークとなり、それ以降、加齢にしたがって減少して行き、「70歳以上」では30.3%になっていた。その反面、「親と子と孫の3世代」は「50歳代」の4.9%

と下がっていった以降、加齢にしたがって増加していく傾向が見られた。年齢別の世帯構成がライフスタイルの変化を象徴していた。



年齢別と就労状況別とのクロス

年齢別と就労状況別とのクロスをしたところ、年齢別の就労形態の変化が明らかになっていった。最も構成比の高かった「会社員・公務員」のいわゆるサラリーマンは、「30歳代」の47.6%がピークで「30歳未満」から「50歳代」までは40%台と一定していた。定年後の「60歳代」になると12.1%と極端に減少していくが、当然ながら「60歳代」以降は「就労していない人」が極端に増加していく傾向が見られた。「パート・アルバイト」は「50歳代」で19.4%に増加しピークを迎えるが、「専業主婦」は「30歳未満」の32.4%から加齢にしたがって減少し「50歳代」で最も低くなり、「60歳代」が34%でピークとなることが読み取ることができた。



住居の形態別と居住歴別とのクロス

住居の形態別と居住歴別とをクロスしてみたところ、特徴的な傾向が明らかになった。「持ち家・一戸建て」は当然ながら居住歴で「21年以上」が6割近くと最も多くなっていた。「持ち家・マンション」では「6～10年」が27.7%と多くなっているものの「3年未満」「3～5年」を合わせた5年以下が35.0%で約3分の1を占めていた。「賃貸・マンション」では「3年未満」と「3～5年」がそれぞれ3割台で、合わせて6割をこえていた。このことから、居住歴の短い人は「賃貸・マンション」に多く、中間的に「持ち家・マンション」となり、居住歴の長い人は「持ち家・一戸建て」という棲み分けがおおよそされているように見られた。

